

□～やさしい日本語で伝えたい～FM アップルウェーブ(株)の取り組みと受賞後の活動について

青森県弘前市企画部企画課

主査 小山内 孝 紀

FM アップルウェーブ(株)は、災害時のわかりやすい情報伝達を目指すために取り組んできた「やさしい日本語」を使った放送や活動が評価され、平成 17 年度に第 10 回防災まちづくり大賞の防災情報部門で消防庁長官賞を受賞させていただきました。

この取り組み内容と受賞後の活動について紹介します。

「地域の防災」が理念

まずは、FM アップルウェーブの概要と防災に関する取り組み状況を紹介します。

FM アップルウェーブは、弘前市が生産量日本一を誇る「りんご」にちなんだネーミングのコミュニティ FM 局として、平成 12 年 3 月に誕生しました。地域住民にとって必要と思われる情報をわかりやすく伝え、地域の活性化を図るという放送事業を展開していくうえで、市民に安心と安全を提供できるよう、「地域の防災」を会社の理念の一つとして掲げています。この理念にもとづいて、これまで地域の防災力向上に向けた

様々な取り組みが行われてきました。

会社の防災体制を構築するため、災害時等の危機管理マニュアルや緊急時スタッフシフト表を常備しており、災害時でも市民に対して的確に情報を伝え続けていける体制を整えています。ハード面でも危機管理に徹底し、災害時に緊急放送を維持できるように、停電に備えた無停電電源装置や発電機、緊急割り込み放送設備、各種無線中継機材などを整備しており、コミュニティ FM 全国初のフルデジタル対応放送局となっています。このほか弘前消防署との自動発信ホットラインの確保も行っています。また、防災・災害時に役立つ地域に密着したメディアとして、中継車「アップル号」などを駆使しながら、台風接近時には、アナウンサーが市の防災担当課に待機して、最新の情報を市民に提供するなど、災害時に刻々と変わる情報をラジオを通じて的確に市民へ伝えていきます。

放送番組においても、日常的な防災啓発番組『おしえて 11Q』や、救急の日や防災の日などに合わせた災害・防災特別番組の放送、火災発生に伴う消防車両出動情報の提

供などを行っています。

平成14年3月には、弘前市と「災害時等における放送に関する協定」を締結し、台風や大雨の際には市民に災害情報を提供しているほか、弘前市総合防災訓練へも参加しています。

このような防災に関する一連の取り組みの中で、「やさしい日本語」を使うことで、より多くの命を救いたい、被災者の心の負担を軽減したいという思いで、新たな活動が始まったのです。

「やさしい日本語」って？

災害時の犠牲者の多くは、自力で動くのが困難だったり、情報が伝わらず状況を把握できずに避難が遅れてしまう高齢者や外国人等の災害時要援護者です。平成7年1月に起きた阪神・淡路大震災においては、たくさんの方々が外国人が日本語や英語で発せられる災害情報や避難情報を理解できず、地震による物理的な被害に加えて情報面においても被害を受けるという二重に被災する状況が起きたといえます。そこで、弘前大学人文学部社会言語学研究室の佐藤和之教授をはじめとする研究者は、災害発生時の情報伝達に使うことばを、外国人にもわかりやすく、また情報を提供する日本人にも使いやすいうように、簡潔な日本語にしようと研究し、考案されたものが「やさしい日本語」です。これは、小学校二、三年生程度の難しくない漢字と平仮名、片仮名で表現し、自分が欲しいものを買うことができる程度の方を対象としたことばです。例えば、「給水車」

をやさしい日本語で言い換えると「水をくばる車」、「避難所」は「逃げるところ」となるわけです。

FM アップルウェーブの取り組み

弘前市で災害が起きた時、必要な情報を分かりやすく伝えるためにどうしたらよいかを研究するため、FMアップルウェーブは、弘前大学、弘前市、NPO コミュニティネットワークキャストの産学官連携の構成により、平成14年4月に「減災のための『やさしい日本語』研究会」を立ち上げ、「やさしい日本語」に関する実証研究など様々な活動を行ってきました。

平成17年9月には、「市民が主役災害に強いまちづくり」と題した地域防災フォーラムを主催し、市民や防災関係者の意識啓発を図るとともに防災力の向上に努めています。

同年10月に弘前市で開催した減災のための「やさしい日本語」検証デモンストラクション「みんなで減災2005inひろさき～災害情報を『やさしい日本語』で」においては、事業の共催者として20名近いスタッフを総動員して、留学生や小学生を対象とした実験に参画しました。3年間の検証の結果、「やさしい日本語」は災害が発生した時のパニック状態においても、極めて有効な情報伝達手段であることが実証され、今後の研究推進にも寄与しています。

本業であるラジオ放送においても、「やさしい日本語」を市民に広く普及させるための新たな取り組みとして、「やさしい日本語

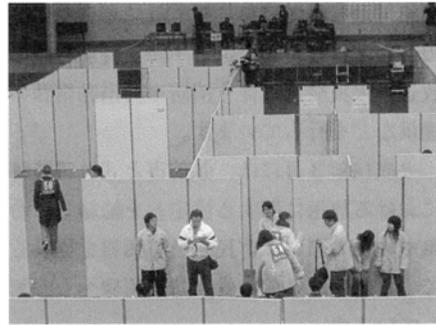


地域防災フォーラム

で伝えたい暮らしの情報ランド」という番組を毎日放送しています。開始当初は、通常の発音に比べてゆっくりとしたスピードで、リスナーが聴き慣れないことなどが理由で、聴きづらいといった意見も一部から寄せられたようですが、「やさしい日本語」を普及させたいという強い熱意と、アナウンサー研修や試行錯誤を重ねた地道な放送の継続によって、市民の間でも浸透しつつあります。

受賞後の取り組みと今後の展望

FMアップルウェーブでは、受賞後も「やさしい日本語で伝えたい暮らしの情報ランド」で「やさしい日本語」を使ったニュースを一日二回、その他に随時、災害情報や防災情報を「やさしい日本語」で放送しています。受賞をきっかけに神戸ユニバーサルデザイン大学で講演を行ったほか、東北コミュニティ放送協議会において多言語放送とともに「やさしい日本語」の放送が秋から始まる予定です。「減災のための『やさしい日本語』研究会」の取り組みは、今年の高校「英語1」の教科書にも検証デモンストレーションの



検証デモンストレーションの様子

様子掲載され、高校の授業で活用され始めています。一人でも多くの外国人を含む市民に普及し、実際の災害時に有効な情報手段となるよう普及・啓発活動を継続しています。

平成18年度弘前市総合防災訓練にも参加し、「やさしい日本語」を使ったコミュニティFMによる災害広報訓練を行いました。

防災訓練での「やさしい日本語」による広報内容を紹介すると、「こちらはFMアップルウェーブです。これから、緊急災害情報を「やさしい日本語」でお伝えします。今日午前9時30分ごろ、岩木山を震源とする地震がありました。弘前市では、震度5強を記録しています。百沢地区では、土砂災害の危険性が高まり、避難勧告が出されていますので、百沢地区にいる方や住民の皆さんは周囲の状況を確認し、落ち着いて避難所へ避難してください。避難所は百沢小学校と岩木山総合公園体育館です。

FMアップルウェーブでは、詳しい情報が入り次第、随時、地震に関する情報をお伝えいたします。」という内容が、「こちらはFMアップルウェーブです。これから、とても大事なお知らせをやさしい日本語でお伝えします。今日午前9時30分ごろ、岩木山を震

源とする地震がありました。弘前市の震度は5強でした。百沢地区では、山やがけが崩れたり、水と混じり合った土や石が急にやってくる危険が高くなっています。そのため百沢地区に「逃げてください」とのお知らせが出されています。逃げる場所は、百沢小学校と岩木山総合公園体育館です。百沢地区の皆さんは、まわりが危なくないか確かめてください。逃げるときは、警察や消防署の人の言うことにしたがって逃げてください。あわてないで逃げてください。逃げるときは、歩いてください。FMアップルウェーブでは、地震についての新しいお知らせがあるときは、すぐにお伝えします。」となります。

話すときはゆっくりとわかりやすく、文字で表すときは漢字にふりがなをつけ、読

みやすく区切ることで、外国人のみならず、子供たちや高齢者の方にも伝わりやすくなります。

このように、弘前市としても防災訓練で活用しているほか、避難所誘導標識を「やさしい日本語」で表示するなど、よりわかりやすく的確に情報を伝達する手段の一つとして活用していきたいと考えています。

FMアップルウェーブは、弘前市を外国人の安全に配慮した減災モデル都市として位置付けて活動を続け、災害時の情報伝達は「やさしい日本語」によることが有効であることから、そのマニュアルの重要性を全国に発信していこうとしています。今後も「やさしい日本語」の研究への参画や普及活動を展開していくことで、言葉のユニバーサルデザインとして全国へ普及し、一人でも多くの命が救われることを期待しています。



「やさしい日本語」を活用した避難所誘導標識